

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひだまりのおうち		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 2日		2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2026年 3月 2日		2026年 3月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々のニーズに合わせ支援を行うことで、ご本人の選択肢を広げることができる。	医療的ケア児ではなく、『子ども』として関わること。学校が主であり、集団や個人での社会性を身に付けていけるような関わりを行っている。	重心児・医療的ケアのある児の発達支援に関して、さらに研修や勉強会に参加し、児童が成長し、自律できるようにサポートしていく。幅広く情報収集を行う。
2	ご家族に寄り添った支援を行っている。相談に応じて、それぞれの専門職がタイムリーに相談を受けている。関係機関との連携。	ご利用日以外でも、いつでも相談可能な状態にしておくことで、一人で抱え込まないように、一緒に考えましょうの姿勢で関わっている。児童やご家族のことで気になることがある際は適宜関係機関と連絡を取り合って情報共有をしている。	他事業所との情報のやり取りをよりスムーズに行うことで、ご家族の困りごと等、関係機関が共通認識できる。
3	それぞれの専門職が「今この児童にすべきことは何か？」を考えることができる。	それぞれの専門職で考え方は様々だが、その考えをきちんと発信し、その子にとっての最善は何か？をタイムリーに話し合っている。	支援計画の内容を細分化することにより、役割分担ができる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童クラブや地域の児童との交流、保護者同士の交流の場の希薄さ	感染のリスクを考えると、集団の中に行くことを躊躇する。児童の体調が良い時が定まらない。保護者会の開催時間帯や組み分けの難しさ。	気候の良い時、体調の良い時に外で触れ合う機会を作る。保護者と児童にご希望を伺い、どうやったらできるのか？保護者会が開催できている事業所への情報収集を行いながら検討していく。
2	個別に合った空間の確保	動ける児童(医ケアあり)にとっては狭い。導線が上手くいっていない時がある。	児童が過ごしやすい、動きやすいように、ベッドやおもちゃなどの配置換えの検討。コード類の整理。定期的に整理整頓を行い、物を減らす。
3	移行支援についての経験不足(就学後)	事業所自体、今までに就学後の移行支援を行った児童がいない。スタッフも情報不足・経験不足。利用できる事業所が少ない。	数年で移行支援が必要な児童がいるため、事前に生活介護等のある事業所や就労支援事業所の見学や情報収集。早めに今後の事を保護者・児童と検討する。